



稲本会長

日本万引防止システム協会（東京都新宿区、稲本義範会長）は2月6日、都内

「プライバシー影響評価」 セミナーで解説

日本万引防止システム協会



瀬戸教授

でセミナーを開き、産業技術大学院大学・瀬戸洋一教授が「プライバシー影響評価の概要とセキュリティカメラシステムへの対応」と題して講演した。

「プライバシー影響評価（PIA）」とは、個人情報収集を伴う新たな情報システムの導入にあたり、プライバシーへの影響度を事前に評価しリスクを回避・緩和するための法制度・運用・技術的な変更を促すプロセスのこと。

例えば「顔認証」など個人情報を使用したサービスでは、情報の「利活用」と「保護」という相反する関係が課題となる。欧米ではPIAを用いてこうした課題に対処しているという。

瀬戸教授は①防犯カメラを例とする個人情報やプライバシーの考え方②PIAの目的と定義③海外と国内のPIAの動向④PIAの実施手順——などを解説。

その上で「日本でも近々、PIA実施が当たり前になるだろう。中でも万引き防止に用いる顔認証システムは、関係者間で合意が必要な最優先PIA事案だ」と指摘した。（瀬戸雅彦）